JTB旅ホ連特集

中部 支部連合会

会長 小田與之彦（越前あわら温泉 つるや）

「重要な一年」と語る小田会長

客室管理ツール活用へ独自の取り組み

本年、旅ホ連は設立70周年を迎える。竹が天に向かって真っすぐ伸びるのは節の役割が大きいと聞くが、節目となる本年が、100周年に向け、お客さま、地域、JTB、そして旅ホ連会員の四方にとってより必要とされる存在となるために重要な一年と認識し取り組みたい。

客室管理ツールの有効活用に関し、旅ホ連の存在価値を高めるために、中部として独自の取り組みを行う。現在議論されている投資増売サイクルの成功に向け、連合会として一丸となって取り組む所存であり、関係会員各位の協力を仰ぎたい。

また、能登半島地震からの復興は道半ばであり、被災地に対し手厚い支援も続けていく。

さて、今年の中部は盛りだくさんの一年となる。秋には愛知・名古屋でアジア最大のスポーツイベント、アジア・アジアパラ競技大会が開催され、全国で3兆6千億円の経済波及効果が見込まれている。経済面に限らず地域の活性化も期待される。大河ドラマ「豊臣兄弟！」のドラマ館も集客に寄与しそうだ。

また、富山では電源開発の歴史・産業観光の目玉と期待される黒部宇奈月キャニオンルートの完成が迫っている。一日も早い供用開始を待ちたい。長野では27年に迫った善光寺の御開帳に向けた「ならでは商品」の造成が始まっており、盛り上がりを見せている。今回の課題は、善光寺がある県北のみならず、県内全域にいかに広く誘客できるかというテーマで臨んでいる。

インバウンドにおいては中部圏誘致協議会との連携を主軸に、ターゲット市場をタイおよびその周辺国に定め、取り組みを行っていく。

社員・従業員のモチベーション向上と経営者との緊密なコミュニケーションを目的とし、優良社員の褒賞研修旅行を沖縄で開催する。イラン情勢に負けない宿泊施設をつくっていきましょう。

九州 支部連合会

会長 西田陽一（ホテル白菊）

「日本の旬　九州」への抱負を語る西田会長

顔と顔の見える関係性が大切

「日本の旬　九州―七色で織りなす九州の魅力―ほっと九州」が、この下期スタートする。コロナ禍の2020年以来、6年ぶりの開催だ。法人・個人・インバウンド、たくさんのお客さまと共に大いに盛り上がる半年間を、今から想像しワクワクしている。

九州といえば、自然・文化・歴史・食の宝庫だ。7県の個性を生かした商品を造成し磨きをかけていく。2次交通も整備し、県をまたいでのプランも充実させる。将来につながる地域商品の創出によりブランド価値を高めたい。旅ホ連70周年という節目での「日本の旬　九州」開催は大変光栄なこと、リーダーシップを発揮していく。

今月は鹿児島で全国営業課長会議を誘致した。7月14日は、熊本にて「日本の旬　九州」のキックオフパーティーが開催される。今回初めて50名のリテールスタッフを招聘（しょうへい）し、翌日から1泊での研修を九州各地へ3班に分けて実施する。九州の魅力を体と心で感じ、お客さまにぜひお伝えいただきたい。

JTB旅ホ連70周年にあたり、先人に思いをはせ、深い敬意を表したい。地域振興を図り、宿泊増売と元気な地域づくりを目指すことこそJTB旅ホ連の使命だ。JTBとJTB旅ホ連は、パートナーシップを強く築いてきた。大切なことは、地域に根差す顔と顔の見える関係性である。JTB仕入販売部のMDメンバーは、法・個・仕の4年間で、旅ホ連会員施設と深い信頼関係を育んできた。今回の組織改編で、仕入販売部に集約されるが、仕入販売部への期待は大きい。現場での重要な接点であるからだ。JTB社員と旅ホ連会員施設社員との交流をさらに促進したい。

JTB旅ホ連100周年を目指し、観光産業発展と地域振興に貢献する思いだが、皆々さまからの大所高所のご指導を今後もお願いしたい。

西日本 支部連合会

会長 岸本一郎（浜湖月）

はっぴ姿の岸本会長

宿泊券増売に向けた追い風が吹く

西日本支部連合会管内では、JTB旅ホ連設立70周年の今年から、来年にかけて宿泊券増売に向けた追い風が吹く。

2025年のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」は、滋賀県長浜市や奈良県大和郡山市に大河ドラマ館が設けられているなど、西日本全体に豊臣兄弟ゆかりの場所が点在している。すでにドラマ放送の効果は表れ始めており、引き続き地元行政や関係者、JTBとの協働によって西日本各地の〝戦国紀行〟を盛り上げ、宿泊需要につながるよう努めたい。

歴史観光では「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録もこの夏に予定されている。奈良県で四つ目の世界遺産となり、世界遺産が集積する西日本へのご祝儀旅行が盛り上がるよう提案していきたい。

ドラマにおいては、TBS日曜劇場「VIVANT2」が島根県などを舞台に2026年7月から、NHK連続テレビ小説「ブラッサム」が山口県を舞台に2026年下期から放送される。ロケ地ツーリズムも西日本を盛り上げることになるだろう。そして、2027年上期には、JTB国内旅行キャンペーン「日本の旬」が中国・四国地方で広域的に開かれる。2026年下期に展開される山口デスティネーションキャンペーンとの相乗効果で中四国エリアが衆目を集め、JTBグループから全社的な送客を期待している。

さらに2027年度には、世界最大級の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ2027関西」が関西9府県で開催されるのをはじめ、兵庫県淡路島と徳島県をつなぐ大鳴門橋に自転車専用道が開通する。サイクリストの聖地とされるしまなみ海道と合わせて、延長約500キロメートルの〝セトイチ〟が実現する。こうした機運を生かし、スポーツツーリズムの先進地として西日本全体でサイクリストやスポーツ愛好家の宿泊需要を促す取り組みをJTB、地域とともに進めていきたい。

沖縄 支部連合会

会長 平良朝敬（かりゆしグループ）

旅ホ連沖縄支部50周年で講演する平良会長（2020年）

沖縄観光の価値向上を実現する基盤組織

2025年度は、沖縄支部連合会にとって実り多い一年であった。JTBの国内旅行キャンペーン「日本の旬　沖縄」を成功裏に終えられたことは、沖縄の新たな魅力を全国に発信する大きな機会となった。関係各位の尽力に深く感謝する。

そして、2025年度の沖縄への入域観光客数が1093万5800名という過去最高を記録したことは、何よりも喜ばしい。コロナ禍を乗り越え、これほど多くの方々に沖縄を選んでいただけたことは、われわれ観光に携わる者にとって大きな喜びであり、誇りである。この数字は、沖縄観光が力強く回復し、さらなる成長を遂げている証しに他ならない。

この勢いをさらに加速させるべく、2025年度に沖縄支部連合会独自の中期事業プランを策定し、スタートさせた。このプランでわれわれが目指す【沖縄支部連合会のあるべき姿】は、「沖縄観光」の価値向上を実現するための基盤組織となることだ。

具体的には、世界から選ばれる持続可能な観光地、地域・旅ホ連会員・お客さま・JTBが幸せな四方良しの実現、豊かな自然・歴史・文化等の魅力の最大限の発信、そして安心・安全・快適に暮らせる・滞在できる沖縄の実現を掲げる。この「あるべき姿」の実現に向けて、われわれは「販売」「地域振興／観光振興」「人財育成」「組織強化」の四つの柱を掲げ、事業戦略を明確にしていく。会員施設との連携を一層強化し、一丸となって活動していく所存だ。

JTB旅ホ連設立70周年という記念すべき年に、沖縄支部連合会として、会員施設の皆さま、JTBの皆さま、そして地域の皆さま、観光業界の関係者の皆さまへ、心からの感謝を申し上げたい。これまでのご支援、ご協力に深く感謝するとともに、今後も変わらぬご指導ご鞭撻（べんたつ）をお願いする。沖縄観光のさらなる発展のため、共に力を合わせ、未来を切り拓いていこうではないか。